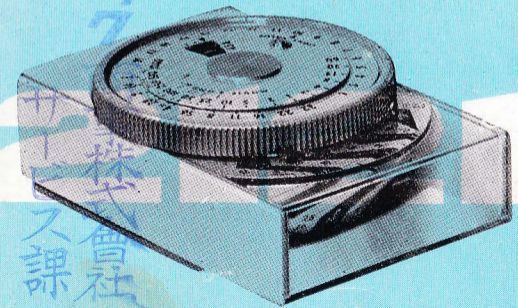


SEKONIC

L-2/型



セキニック
商事株式会社
サービス課

セキニック
商事株式会社
サービス課

セキニック
商事株式会社
サービス課

セキニック
商事株式会社
サービス課

212121212121

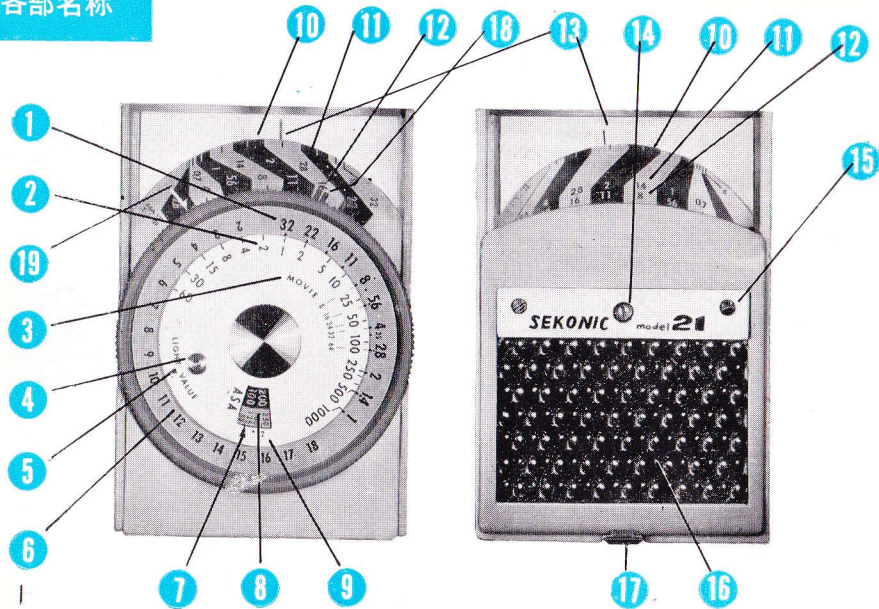
各部名称	1~2
セコニック21型について	3
高・低二段の使いわけ	
セコニック21型の扱い方	4
フィルムの感光度をまず最初にセットする	4
Low (低) で測定の場合	5
High (高) で測定の場合	6
ディレクト・リーディング	7
ライトバリュー	8
ポラロイドナンバー	9
カラー撮影について	10
21型を反射光線式として使用する場合	11
反射光線式露出メーターは被写体のそばまで 近寄って測らなければならない。人物・ポ ートレートの場合	11
反射光線式露出メーターはただ近寄って測っ ただけでもいけない。それは平均を求めねば ならぬ	12

風景やスナップなどどうしても被写体のそば まで近寄れないとき	13
a. 風景のとき	13
b. スナップのとき	14
人物を雪景色や直夏の海岸など、極めて明る い光線のもとで撮影するとき、露出メーター の指示どおりでは露出が不足します	15
逆光の場合の測り方	16
a. 被写体をシルエットにする時	
b. 逆光下で被写体全体を描写したいとき	
c. 逆光下で被写体もバックも描写したいとき	
非常に暗い場所での測り方	17
復写の場合の露出の求め方	18
接写の場合の露出の求め方	19
シネ撮影の場合の露出の求め方	20
フィルターを使用して撮影する時	21
標準反射板について	22
反射光線式露出メーターに適した被写体	23

SEKONIC EXPOSURE METER

セコニック21型を入射光線式として使用するとき.....	24
入射光線式露出メーターは、被写体からの反射光線が照射光の18%であると言う考えのもとから出発している	
入射光線式として使用する場合、原則としてその受光面(入射アタッチメント)を被写体の位置から正しくカメラの方に向けて測定しなければならない.....	25
カメラ位置の光線状態と、被写体位置の光線状態の異るとき.....	26
入射光線式露出メーターは被写体の状況によって幾分補正しなければならない.....	27
入射光線式露出メーターに適した被写体.....	28
ゼロ・アジャスト.....	29
露出メーターの寿命について.....	30
露出メーター保存上の注意.....	31
A S A換算表.....	32

各部名称



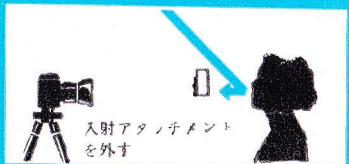
入射アタッチメント



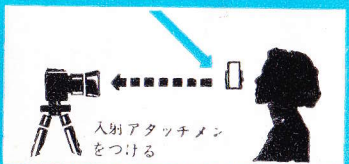
- ① 絞り目盛
- ② シャッタースピード目盛
- ③ シネ用駒数目盛
- ④ ツマミ
- ⑤ 光指数(ライトバリュー)矢印
- ⑥ 光指数(ライトバリュー)目盛
- ⑦ ASA矢印
- ⑧ ASA窓
- ⑨ フィルター用(2倍)指標
- ⑩ ガイドライン
- ⑪ 低照度用直読み目盛
- ⑫ 高照度用直読み目盛
- ⑬ 指針
- ⑭ ゼロ調整ネジ
- ⑮ 入射アタッチメント取付ビス
- ⑯ 受光部
- ⑰ 吊り紐取付環
- ⑱ 低照度指標(赤)
- ⑳ 高照度指標(白)

セコニック21型について

反射式



入射式



セコニック21型は反射光線式にも、入射光線式にも使用できます。

反射光線式とは被写体から反射して来る光線を測って露出を決める方式（正確に言えば被写体の輝度を測定するメーター）で、また入射光線式とは被写体に当る光線を測って露出を決める方式です。（やはり正確に言えばこの場合は照度を測定するメーターです。）

またセコニック21型は、明るい時と暗い時とそれぞれ両方使いわける高・低二段切替もなっております。

特にこのメーターの心臓とも言うべきフォトセル（光電池）は、特許製法による高性能スーパーフォトセルを使用しておりますので他のどのメーターよりも測定範囲が広がっております。（低照度用Hi-Fiアンプは自蔵されています）

高・低 二段の使いわけ

セコニック21型の高・低二段の切替は、完全オートマツトになっており、ダイヤルを右に廻せばHighとなり、左に廻せばLowに切替えられ針はそれぞれHigh・Lowの働きをします。

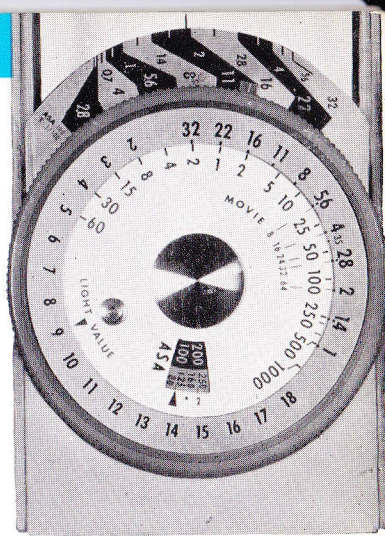
日中の室外や、明るい場所ではHighで測定し（このような場合Lowで測定しようとしても、針に指標を合わせることはできません）室内や暗い雨の日などはLowで測定します。（やはりこの場合もHighで測定しようとしても、針に指標を合わせることはできません）

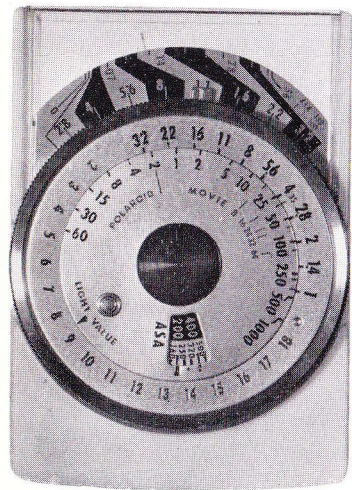
3 入射光線式として使用の場合も、High・Lowの切替は同じです。

セコニック21型の扱い方

フィルムの感光度をまず最初にセットする

まず測定する前に貴方のお使いになるフィルムの感光度をツマミを廻してASA窓▲印に正しく合わせて下さい。（▲印の右方にある・と2の記号はフィルターを使用した場合に用います。フィルターを使用した場合の項参照して下さい。）なお同じフィルムでも太陽光の時と人工光の時とでは感光度は変わりますからフィルムに同封されている注意書をよくご覧になって下さい。





5 ASA 200 赤ポインター使用

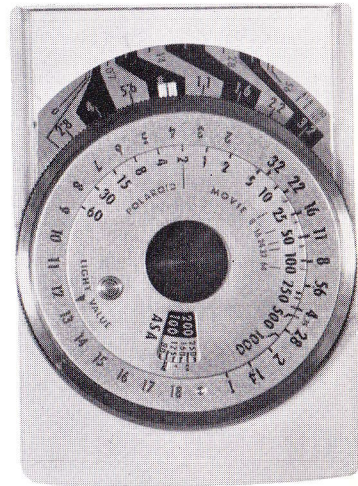
明るさに応じて針が振れます
もし感光度ASA200のフィルムを使用し、Lowで測定して針が14・11のガイドライン目盛を指示した場合、ダイヤルを静かに右または左に回し赤指示票を針の指示した14・11のガイドラインにもって行きます。

求める露出は図のようにF 2で $\frac{1}{60}$ ・F 2.8で $\frac{1}{50}$ ・F 4で $\frac{1}{25}$ とそれぞれ組合わされております。このうちどれか一つの組合わせを被写体の状況によってとって下さい。

ただしF 5.6やF 8以下は絞りとシャッタースピードの組合わせは多少ズレておりますが、このような場合は喰い違いの生じた $\frac{1}{60}$ ・ $\frac{1}{50}$ ・ $\frac{1}{25}$ ・1秒のシャッタースピードに対する絞りの位置を読みとり、カメラの方の絞りもこの位置にして撮影します。しかし図のような組合わせはF 5.6の $\frac{1}{60}$ 秒・F 8の $\frac{1}{50}$ 秒・F 16の $\frac{1}{25}$ 秒・F 22の1秒、またF 32は2秒と読んでも一向差つかえありません。

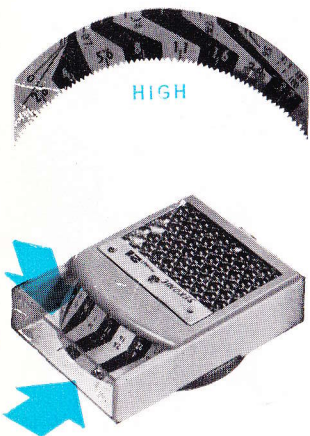
次にASA100のフィルムを使用し、Highで測定した場合、針が1・8を指示したとします、この場合も前と同じ要領でこんどは白指示票を針の指示したガイドライン目盛にもって行きますと、求める露出はF 8の $\frac{1}{100}$ ・F 11の $\frac{1}{50}$ ・F 16の $\frac{1}{25}$ ・F 22の $\frac{1}{10}$ とそれぞれ指示しています。このうち被写体の状況によってどれか一つの組合わせをとって下さい。

喰い違いの生じた場合は前項と同様にして読みとります。



ASA100 白ポインター使用

LOW



セコニック21型は、一々ダイヤルをまわして計算する必要のないダイレクト・リーディング(直読法)をとっております。

その方法は、もし貴方が感光度ASA100のフィルムを使用する場合はカメラのシャッタースピードは必ず $\frac{1}{100}$ 秒にセットしておいて下さい。メーターを向け、針の指示したガイドラインの数字がすぐそのまま $\frac{1}{100}$ 秒のF値となります。

もし High で測定し針がガイドラインの1.4・11を指示したら下段の11を直ぐFとして、F11の $\frac{1}{100}$ 秒で撮影して下さい。(ダイヤルを念のため指示通り合わせてみますと、矢張りF11の $\frac{1}{100}$ 秒となりますから一々計算の必要がないわけです。)

ただしこの方法をとる時のガイドラインの目盛の読みとりは、High の場合は下段の2.8・4・5.6・8・11・16・22 32を読み、Low の場合は上段の0.7・1・1.4・2・2.8・4・5.6を読まねばなりません。

感光度ASA50のフィルムを使用の時は、カメラのシャッタースピードは $\frac{1}{50}$ 秒にセットし、また感光度ASA200のフィルムを使用の時はシャッタースピードを $\frac{1}{200}$ 秒にセットすれば、方法は全く前と同様に簡単に露出が直読みできます。

なおこのメーターは裏面および上面からも同様に読みとれます。

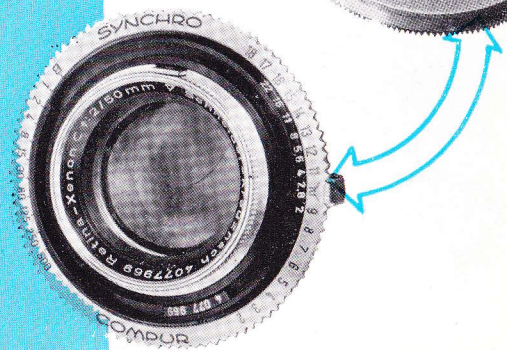
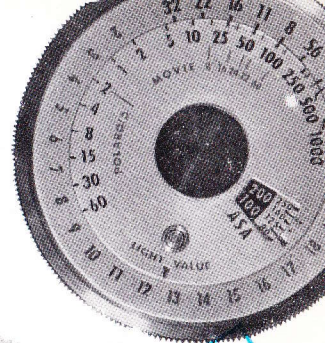
ライトバリュー

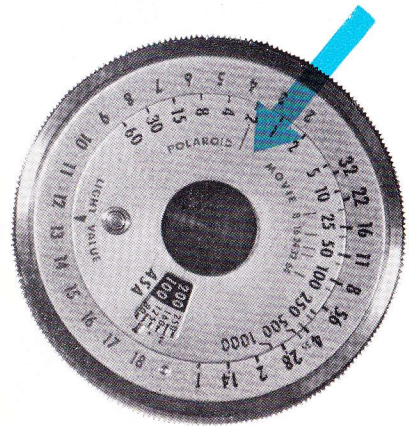
シンクロコンパーシャッター付カメラをお持ちの方は、このライトバリュー目盛で露出を決定して下さい。

測定方法は普通と同じで、ただ求められたライトバリューをカメラにセットするだけです。

もし感光度ASA100のフィルムを使用して測定し、ライトバリュー目盛が14を指示した時カメラのライトバリュー目盛も14にセットして下さい。こうすれば被写体の状況によってカメラの絞をF8にすれば、シャッタースピードは自動的に $\frac{1}{50}$ 秒となり、またF11に絞りこめばシャッタースピードは自動的に $\frac{1}{25}$ 秒にセットされます。

反対にシャッタースピードの方を $\frac{1}{50}$ 秒にセットすれば絞は連動してF16になります。また $\frac{1}{25}$ 秒に置きかえれば絞は自動的にF5.6に開いて来ます。





ポラロイドナンバー

ポラロイドカメラをお持ちの方は、このポラロイド目盛で露出を決定して下さい。測定方法は普通と同じで、ポラロイド赤目盛の数値をカメラにセットすればよいわけです。

カラー撮影について

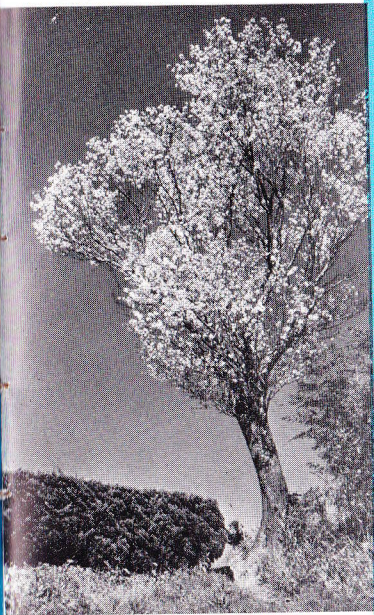
カラー撮影に露出メーターはなくてはならないものです。

モノクローム（白黒）フィルムはある程度のラチチュード（寛容度）はありますが、カラーフィルムはこれが極めて少く、従って少しの露出の過不足があっても美しい色は再現出来ません。絶対の適正露出を与えることが必要です。しかしこれは人間のカンではどうも出来得ることではなく、やはり科学的に露出メーターを使用することです。

カラー撮影の場合の測定法はこれと言って特別にあるのではなく、ただフィルムの感光度を指定どおりセットするだけで、あとはモノクローム撮影の場合と全く同じです。しかしどちらかと言えば入射光線式で測定した方がよろしいです。（反射光線式で測定の場合は標準反射板の併用をおすすめします。）

またカラー撮影はさらに美しい色を再現するために“光の質”（色温度）も正しく測定しなければなりません。これには露出メーターと共にカラーメーター（色温度計）を併用することが最も理想的でしょう。

（カラーメーターの御質問などについては、別におはがきを弊社宛下されば早速カタログ・パンフレット類をお送り申し上げます。）



セコニック21型を反射光線式として使用する時

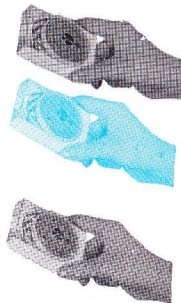
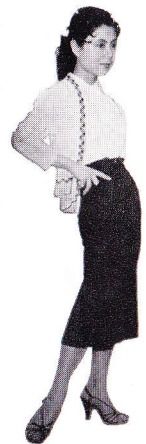
反射光線式露出メーターは被写体のそばまで近寄って測らなければならない……
人物撮影、またはポートレートの場合

前にも申し上げましたとおり、反射光線式と言うのは被写体から反射して来る光線を測って露出を決めるメーターです。しかし被写体から反射して来る光線を測ると言ってもカメラの位置からただ漠然と被写体の方に向けたのでは適正露出は得られません。

露出メーターにもやはりカメラのレンズのように包括角度があり、勿論被写体の反射光線も入って来ますがそれ以外の光線、例えばバックの光、屋外でしたら空の光線・路面の照り返し等その包括角度内の総合されたすべての光線が全部入って来てしまうからです。ですから反射光線式露出メーターはできるだけ被写体のそばまで近寄り、その反射光線のみ(輝度)を正しく測定しなければなりません。メーターと被写体との距離は約10センチメートルが一番適当です。ただしその際メーターの影をつくらしたりまた測ったりしないように注意して下さい。



反射光線式露出メーターはただ近寄って測ただけでもいけない。それは平均した値を求めなければならぬ……



さて今度はただ近寄って測ただけでもいけないのです。もし被写体(人物としましょう)が白い上衣に黒のズボンをしていたとします、

この場合メーターを近づけ、白い部分を測った場合と黒い部分または皮膚等を測った場合はみなそれぞれメーターの指示は違ってきます。なぜならみな反射率が違うからです。

ですからいかに近寄っても白い上衣のみを測ったのでは白の部分の適正露出であって他の皮膚や黒の部分は不足となってしまいます。またその反対の場合も同じようなことが言えます。では一体どこを測ったら良いのでしょうか。それは平均をとることです。

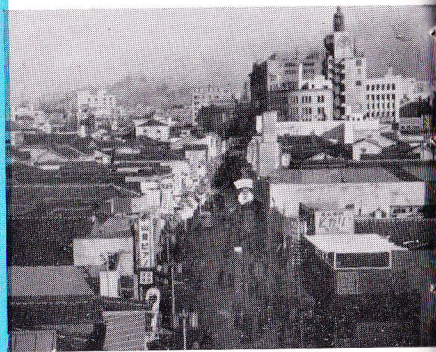
厳密に言えば被写体の各部を測って(頭髪・皮膚・明るい部分・暗い部分)その平均した値を求めなければなりません。しかし普通被写体の最明部と最暗部を測ってその中間の値をとればよろしいでしょう。また標準反射板を使用するのも一つの方法です。(標準反射板については別項でご説明申し上げます。)

前の項で反射光線式露出メーターは被写体のそばまで近寄って測らなければならないと申しましたが、風景やスナップなどの場合はどうしても近寄ることは出来ませんからつきのようにして測って下さい。

a. 風景のとき…… カメラの位置から直接被写体、または目的の中心にメーターを向けますが、ただしこの場合空の光線が入らぬようメーターを少し斜め下に向けて測ります。しかしその風景が広く展開した風景であったり、また遠くの山々を写すような場合は前のようにして得られたメーターの指示どおりではなく、その値をきりつめて載かなければなりません。

空気光の影響で被写体の暗部が明るくなり、被写体コントラストが低くなるからでもあります。もしF 22で $\frac{1}{200}$ 秒とダイヤルが組合わされましたら $\frac{1}{200} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{400}$ でF 22の $\frac{1}{300}$ 秒となります。

風景やスナップなどどうしても被写体のそばまで近寄れないときは……



b. スナップなどのとき……

街頭などでいい被写体がみつきり、ヨシッ! とばかりメーター片手に被写体目がけて飛び出したのでは折角のチャンスも被写体に感ずかれ、みすみす見のがしてしまいます。こんな場合もやはり風景と同じ測り方をして下さい。た

だし切りつめる必要はありません。また代用測定として標準反射板を使用すれば最も良い結果が得られます

人物を雪景色や真夏の海岸など、極めて明るい光線のもとで撮影するとき、露出メーターの指示どおりでは露出が不足します……

もしスナップの要領で人物を雪景色や海岸などの極めて明るい光線のもとで撮影するときは、メーターの指示より一段低い目盛を読みとって下さい。これは被写体をとり囲んでいる物体から必要以上に強い光線がメーターに入ってくるのを補正するためです。(このような場所は極めて乱反射が多い。)しかし被写体に近寄って測った場合や、標準反射板を使用した場合はこの必要はありません。



逆光の場合の測り方…

逆光のもとでもいろいろな写し方があると思います。それによってメーターもそれぞれ使いわけねばなりません。

a. 被写体をシルエットにするとき

メーターをバックの空に向けて測定し、その指示通りで撮影して下さい。つまり露出は逆光に合わせたわけで目的の被写体は不足となり真黒なシルエットにすることができます。

b. 逆光下で被写体を描写するとき

メーターを被写体の暗部に近づけて測定するか、または標準反射板を被写体と同じような光線状態にして測定します。この際バックからの光を少しでもメーターに入らぬよう注意して下さい。やはりメーターの指示どおりで撮影します。

c. 逆光下で被写体もバックも共に描写したいとき

被写体の暗部とバックの明るさを測り、その中間の値を求めてその指示で撮影して下さい。

非常に暗い場所での測り方……

反射光線式の低輝度、また入射光線式の低照度で測ってもなお針の振れないような非常に暗い場所では、被写体の位置から直接光源にその受光面を向けて測って下さい。もし光源が二つも三つもあるような場合はその中の主光源を測定します。そしてその指示通りダイヤルを合わせ、得られた値を10倍して下さい。例えばF4で $\frac{1}{10}$ 秒と組合せられましたら $\frac{1}{10} \times 10 = 1$ でF4の1秒が求める露出となります。またF5.6の $\frac{1}{10}$ 秒と組合せられましたら、 $\frac{1}{10} \times 10 = 2$ で、F5.6の2秒が求める露出となります。



復写の場合の露出の求め方……

書籍、地図、グラフ等の文献、または絵画などを復写するに、セコニック21型は最も適したメーターです。

この場合まず入射アタッチメントを装着し（入射光線式として測定する）メーターを受光部を上にして被写体の上に置きます。つぎにメーターを被写体の各部分に移動させ光線がムラなく行きわたっているかどうかをメーターの針を見ながらライトを調整します。（21型は背後からも指針が読みとれますから、この点非常に便利で、しかも正確に正しい露出を求めることが出来ます。）ライトがムラなく行きわたっているのを確かめ、その時の指針の値で露出を求めます。別に露出倍数したり、その外の面倒な計算も無く、到って簡単に露出が求められます。

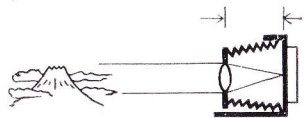


接写の場合の露出の求め方

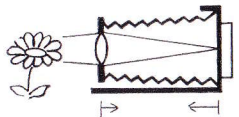
$$\text{実効絞り値} = \frac{\text{指示絞り値} \times \text{レンズとフィルムの距離}}{\text{レンズ表示焦点距離}}$$

静物・商業写真等をフォーカベルなどを使用して接写する場合は反射光線式で測定して下さい。ただし露出はメーターの指示どおりではなく右の式のとおり訂正しなければなりません。

例えば焦点距離が50mm、レンズとフィルム面が100mm、メーターの指示がF 8の $\frac{1}{4}$ 秒だったとします。この場合上記の式で行けば、実効絞り値は $\frac{8 \times 100}{50} = 16$ となり、F 8に絞っても実際にはF 16だけしか働いていないことになります。従って露出は4倍にしなければならずF 8で1秒が適正露出となります（上記の計算で実効絞り値16に対するシャッタースピードを選べばよい。）

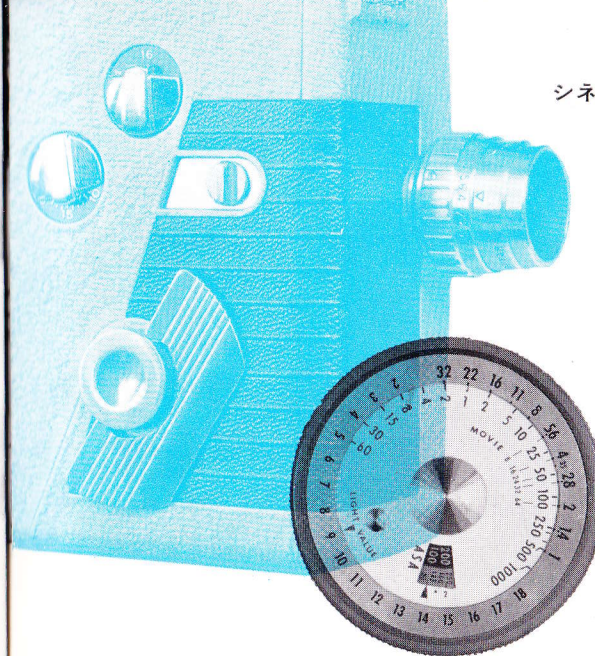


レンズ表示焦点距離



レンズとフィルムの距離

シネ撮影の時の露出の求め方……



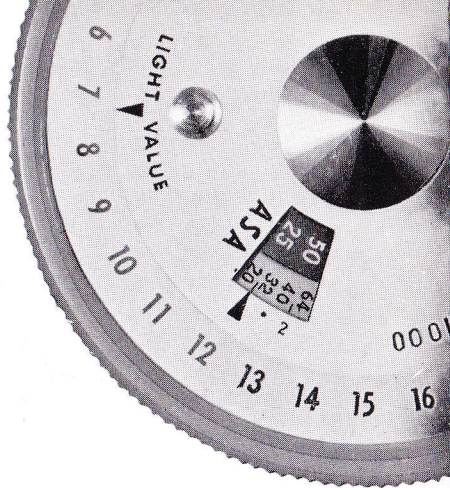
反射光線式で測っても、また入射光線式で測ってもどちらでもよく、測定方法もダイヤルの合わせ方も普通の場合と全く同じです。ただしシネカメラのシャッタースピードは、普通のカメラと違って1秒間に廻転速度が $8 \cdot 16 \cdot 24 \cdot 32 \cdot 64$ と言う駒数になっておりますから（図参照のこと）貴方が使用する駒数に組合わされているF値で露出して下さい。ダイヤルの組合わせのズレている場合は前にご説明申し上げたとおりにして読みとります。

フィルターを使用して撮影するとき……

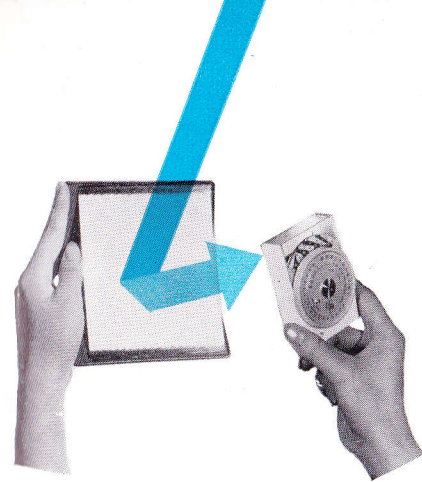
フィルターを使用して撮影する場合、フィルターに指定してある露出倍数だけ露出を多くかけねばなりません。(同じY1・あるいはY2でも各メーカーにより倍数值は違いますからご注意ください。)

もし感光度ASA50のフィルムと倍数值2倍のフィルターを用いて撮影するとします。この場合ASA窓にある2記号をASA50に移動するだけで露出は自動的に2倍の値に組合わされます。また1.5倍のフィルターを用いた場合は・記号(△印と2の中間にあり)をASA50に移動すれば露出は自動的に1.5倍となり、一々計算の必要はありません。

4倍の場合は更にその倍だけ2の位置を移動すればよろしいのです。



ASA50 フィルター2倍



標準反射板について……

前に申し上げましたが、明暗各種コントラストのあるものを反射光線式露出メーターで測定する場合、その明暗を測って平均した値を求めなければなりません。しかし標準反射板を使用すればそのような手数は省け、ただ一度これを測定することによって簡単に平均した値を求めることができます、と言いますのは標準反射板は標準反射率18%の無彩色に塗られているものだからです。ですからどんな状態の光線の場合でも、とにかくその時の光線の18%より反射して来ませんから、いつでも標準の値、つまり平均した値が得られると言うことになります。ではなぜ18%が標準の値かと言うことについては後の入射光線式の項をお読み下さればご了解戴けるものと思います。

反射式測定法に適した被写体



シルエット



展開風景



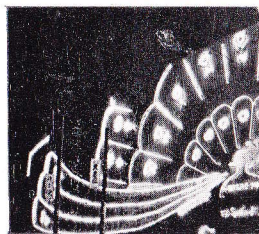
被写体の一部



黒っぽいもの



白っぽいもの



発光体

セコニック21型を入射光線式として使用するとき

入射光線式露出メーターは、被写体からの反射光線が照射光の18%であると言う考えのもとから出発している……

例えば人物などを撮る場合、反射光線式露出メーターで露出を決めるには明部と暗部を測ってその平均した値を求めるか、または標準反射板を使用しなければなりません。しかし入射光線式露出メーターではそのような手数はなく、ただ一度の入射光測定で簡単に平均した値が求められます。それはこのメーターで入射光を測定するとき、すでに取りつけられた入射アタッチメントによって直ちに中庸の値に補整された値を示すようになっているからです。もっと解り易く説明すれば普通私達の撮影する被写体の反射率は約5%~90%の間にまず大体含まれているものと考えられ、(日本化学規格0520によれば最も反射の少ない黒の反射率は2.4%、また最も反射の多い白の反射率は88%あります。)

従ってこの外のいろいろな物の反射率は例えどのような色相(色あい)と彩度(あざやかさ)をもっていたとしてもすべてこの間に含まれているわけです。さてここで各反射率の平均をもとめれば18%~20%がその最も多い中庸の値となり、入射光線式露出メーターはこの考えのもと、つまり被写体の反射光線は始めから18%~20%より反射して来ないものとしてこれと同じ割合だけ照射光線のうちから取り入れるようにしてあるものなのです。

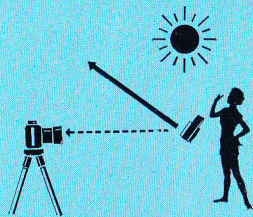
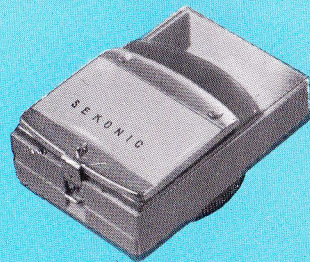
ですから被写体の反射率が18%あるものと考えればただ一度の入射光測定で中庸の値が得られると言うわけなのです。この値は反射光線式露出メーターで明暗各部を測って平均を出した値とほとんど一致します。ただし極端に明るい被写体や、極端に暗い場合は幾分補整しなければなりません。

セコニック21型を入射光線式として使用
す場合、原則としてその受光面（入射ア
タッチメント）を被写体の位置から正しくカ
メラと主光源の間の方へ向けて測定しな
ければならない……

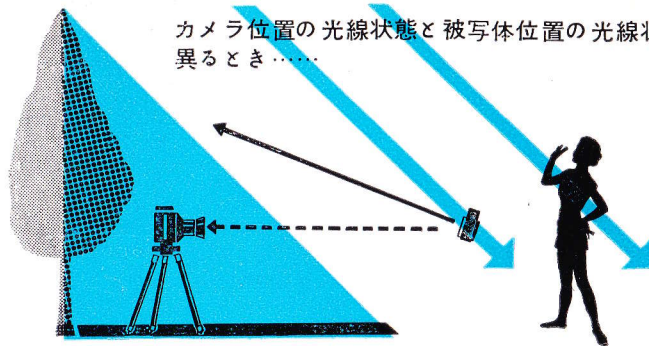
入射光線式とその名の示すとおり、このメーターは被
写体に対して入って来る光線つまり照度を測定して露出
を決めるメーターです。ですからその測り方も被写体と
同じ位置で、被写体に当る光線をこのメーターで受けな
なくてはなりません。

しかしこれは原則であって必ずしもいかなる場合でも
被写体のそばまで近寄って測らなければならないと言う
ことはありません。被写体とカメラの位置の光線状態が
同じなら、わざわざ被写体のそばまで近寄る必要はなく、
ただ自分の位置から図のように逆の方向に受光面を向け
るだけでよいです。メーター受光部と被写体を同じ
ような光線状態にすること。

ただし写真の様に広く展開した風景や、遠く of 山々な
どを被写体にした場合、前に申し上げたとおりの測り方
（逆方向に向ける方法）で測りますが、得られた露出は
 $\frac{1}{2}$ に切りつめなくてはなりません。理由は反射光線式で
風景の測り方の際に申し上げましたのでその項をご参照
下さい。



カメラ位置の光線状態と被写体位置の光線状態の
異なるとき……



例えば木陰から陽の当たっている場所を撮影しようと言うような場合、カメラ位置で入
射光を測ったのでは適正露出は得られません。結果として露出過度になってしまいます。
この場合メーターを被写体のそばにもって行くか、あるいはわざわざ被写体のそばま
で近寄らなくとも、メーターを被写体と同じような光線状態のところまでもち出して測
定すればよいです。ただしこの場合もカメラと被写体とを結ぶ一直線の軸上にもっ
て行ってから又はこれと平行な方向にメーターを向けて下さい。またこの反対の光線状
態の場合も同じことが言えます。

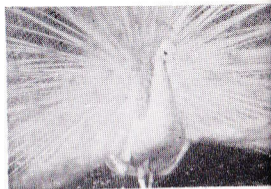
室内撮影または光線が人工光線の場合は確実に被写体のそばまで近寄り、その位置で
測定しなければなりません。

入射光線式露出メーターは被写体の状況によって幾分補整しなければならない……

反射率の極めて低い黒っぽいものを撮影しようとする場合、また被写体のどこか或る一部分のみを描写しようとする場合は（ただしこの一部分はやはり反射率の低いものの場合）入射光線式露出メーターの指示どおりでは適正の露出は得られません。と言いますのはその被写体からの反射光線が5%であるかも知れないのにこのメーターの指示では18%と計算され、露出不足となってしまいます。ですからこのような黒っぽいものを入射光線式露出メーターで測定した場合、得られた値を2倍にしなければなりません。また反対に反射率の極めて高い白っぽいものを撮影する場合、このメーターの指示どおりでは露出過度になってしまいます。なぜなら被写体からの反射が80%あるかも知れないのにこのメーターの指示では18%と計算されてしまうからです。ですからこのような被写体の場合は得られた値を $\frac{1}{2}$ に切りつめなければなりません。その外展開した風景や雪景色、真夏の海岸などで測定する場合も $\frac{1}{2}$ に切りつめた方が良いでしょう。

ただし以上のような被写体には反射式測定法が好しいと云えましょう。

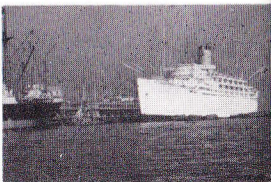
白っぽいもの $\frac{1}{2}$ 倍（切りつめる）



黒っぽいもの 2倍



展開した風景 $\frac{1}{2}$ 倍（切りつめる）



入射式測定に適した被写体……
（反射式で標準反射板を用いても同じ）

展開した明るい所をバックにした人物



特にカラー撮影には適切



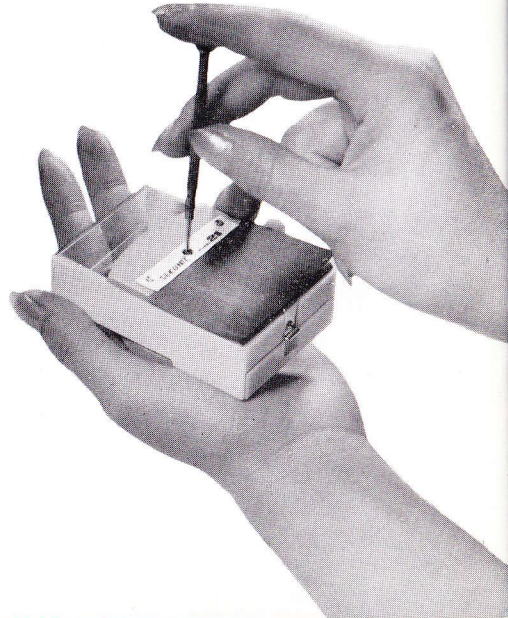
複写の場合

ゼロ・アジャスト

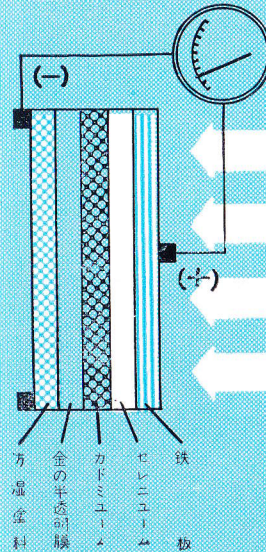
メーター受光部に光が入らぬよう完全に覆っても、指針が0の位置から多少ズレることがあります。

これは夏や冬に於ける温度の変化のためで故障ではありませんから心配せず、ご自分で調整して下さい。

調整のしかたは受光面に光が少しも入らぬよう完全に覆ってゼロアジャストネジを小さなドライバーで静かに右、または左に廻らし針を正しく0の位置までもって行って下さい。



露出メーターの寿命について



露出メーターの寿命と言うことは、とりも直さずその心臓とも言べきフォトセルの寿命であると言うことができます。しかしフォトセルは決して一年や二年で駄目になってしまうようなものではありません。これは大体図のような構造から成り立っていてこの表面に光が当たりますとセレンニウムとカドミウムとの間隙に電子が発生し、表面金属の方へと働き出して(-)より(+)へと電流は流れ出します、この際これらの構成物質である鉄(またはアルミニウム)セレンニウム・カドミウム・金等は何等の変化もなく、消耗することはありません。丁度物を叩くと音が出るというのと同じ物理現象で化学現象ではなく、フォトセルは光エネルギーを電気エネルギーに変える単なる変換器なのです。

乾電池や蓄電池のように蓄積された電気を自己消耗によって放電するものではありません。従っていつまでも安心して使って載くことができます。

露出メーター保存上の注意

1. 湿気の多いところへ長い間放置しないようにして下さい。
2. 摂氏60度以上の高温を与えないようにして下さい。
3. 急な衝撃を与えないようにして下さい。
4. 長い間使用せずしまっておく時は、革ケースより取り出し、桐箱等にシリカゲル（防湿剤）と一緒に保存して下さい。ただし金庫や金属の容器への保存は避けて下さい。



発・売 元 株式会社 早苗商会 東京都中央区日本橋本石町3-4 Tel(24)6828~9

関西発売元 株式会社 南光商会 大阪市南区北炭屋町27(大京ビル内) Tel(27)0490

ASA換算表

A S A	10	16	32	50	100	200	400	800
W E S	8	12	24	40	80	160	320	680
D I N	$11/10$	$13/10$	$16/10$	$18/10$	$21/10$	$24/10$	$27/10$	$30/10$

SEKONIC EXPOSURE METER

セコニックはアフターサービスに特に重点を置いておりますから、いつまでも安心してご使用になれます。本メーターのパッケージに同封しております ファンカードにそれぞれ記入事項をお書き込みの上、直ちに弊社サービス部宛お送り下さい。ファン名簿（登録台帳）に貴方の御氏名を記載の上早速登録通知書をお送り申し上げこの日よりもし一カ年の間にメーターが自然に具合が悪くなりましたら無料で修理申し上げます。ただ不注意による故障については実費修理申し上げます。（故障の場合は直接弊社修理部宛お送り願います、到着日より五日以内に修理申し上げ、早速ご返送致します。）

21